

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：MM(1)	
日付：11月 1日（土）曜日、セッション時間：9:00～10:30	
司会者名（所属）：中山晶一郎（金沢大）	
討 議 内 容	セッション全体： 90 分のセッションを 3 つの発表に等分に割り振ったため，全体討議の時間はありませんでした．
	（発表番号）発表者名（所属）：1 中村卓雄（東工大） Q アンケート質問で互いに非常に似た質問がいくつかあるが，被験者は適切に答えているのか．また，相関が高いなど問題はないのか？A 相関はそれほど高いわけではない．意志や意図など心理学の概念に基づいて設問を作っている Q 共分散構造分析を行わず，なぜ複数の重回帰分析を行って，パス図を作成したのか？A 共分散構造分析も今後検討したい Q 質問の回答をどのように数値化・分析しているのか？A 五段階の回答をそのまま数値で用いた． Q 徒歩・自転車は末端交通で，転換対象と違うのではないか？
	（発表番号）発表者名（所属）：2 西堀泰英（豊田都市交通研） Q 通勤手当増加などの影響は？A 公共交通の通勤の満額支給の企業も多い．1 週間に数日の公共交通利用などを促進する場合，現在の通勤手当システムでは対応できないのが課題． Q 参加意向無しの理由は？A エコ通勤という名称に拒否反応がある事業所も多い Q アンケート回答者の立場は？A 総務担当が多い． Q 事業者のメリットは？A 環境にやさしい企業のアピールなど． Q フィードバックは行っているのか？A Web TFP を見ていると情報が得られる
	（発表番号）発表者名（所属）：3 高瀬達夫（信州大） Q ツアーバスが多いのではないかと？A 鉄道事態を観光資源としたい． Q 観光 MM は MM か？A 答えは出ない．観光振興の観点を MM に取り入れようとする試みである． Q どこからの観光客が多いのか？A 関東圏が 60% ぐらい．別所温泉自体の認知度は高いので，鉄道に関しても認知度を高めたい． Q リピーターに対してどのように働きかけるのかが重要 A リピーターは多いが，数年に 1 回や年に 1 回程度であるため，フィードバックの時期を考えて行くと良いかもしれない．